

令和 5 年（2023 年）度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：日本郵便株式会社

協定締結日：平成 30 年（2018 年）10 月 12 日

活動状況：継続中

連携先窓口：事業共創部 鈴木雄輔氏

活動資金：大学予算

担当教員（所属）：峯 洋子（農学科）

活動体制（単位）：大学

関連教員（所属）：なし

活動目的：

1. 農業及び関連産業の活性化に向けた連携

- ・日本郵便遊休地にビニルハウスを建設し、難易度の高い高糖度トマト生産を、農業未経験者の日本郵便社員でも可能とする砂栽培（トレファーム®）システムにて実証。
- ・糖度 8 以上の果実を「フルーツトマトさやまる」、それ以外を「さやまるプロジェクトの朝採り完熟トマト」としてブランド化し、様々な販路で販売。

2. 人材育成に関する連携

- ・生産における課題を抽出し、学生の研究テーマとして取り組む。

活動内容・成果：

1. 農業及び関連産業の活性化に向けた連携

- ・2020 年よりプロジェクト成果物であるフルーツトマト「さやまる」を日本郵便が販売。
- ・2021 年 6 月「さやまる」がおもてなしセレクション受賞
<https://omotenashinippon.jp/prize/selection/2021/2100-01-064/>
- ・2021 年 9 月 ビニルハウスを 7a から 20a に増設し、生産量拡大
- ・2023 年 3 月「さやまる」が野菜ソムリエサミット金賞を受賞
<https://www.vege-fru.com/doc/news/23/summit03-2.pdf>
- ・2023 年 3 月「さやまる」が野菜ソムリエサミット金賞を受賞

2. 人材育成に関する連携

- ・長野農場での栽培試験における農学科学生の支援活動（2023 年 12 月 19 日学生 2 名）



長野農場に飾られた日本野菜ソムリエサミット金賞表彰状



長野農場での萎れ灌水自動化実証に向けてセンサーとロガーを設置するゼミ学生（2023年12月19日）